講義名	技術開発論				
科目区分	学部専門科目				
担当教員	持田　信治				
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ３時限		授業形態		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメン／ 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング／2014年度 サービス産業学部				
履修開始年次	３年生	単位数	2	備考	

主題と概要

本講義はものの価値創造の基礎をなす技術開発に関して理解を深めることを主題とする。
現代の企業活動を取り巻く状況は複雑となっている。例えば企業外では環境に与える影響の低減化や法規制の強化が進んでおり、加えて企業内では企業統制の強化やコンプライアンスが求められている。更に製造業では顧客ニーズの多様化や製品の販売方法の変化への対応と製品開発、製造、販売に於けるスピード向上が必須となっている。そして技術は高度化しており、技術を製品化して事業化を実現するためには人と資金と設備を高度に駆使する必要性が増しており、新製品開発プロジェクトの成否は企業経営を左右する。そこで企業は情報処理技術、通信技術を駆使して意志決定の速い体質実現を進めている。そこで本講義では製造業での技術開発、製品製造と販売の流れを中心とした企業活動を資源管理、計画管理、品質管理、情報管理の観点から解説する。本講義の主題は技術開発から見た経営の課題について説明できることである。また、本講義では従来の日本的な製造方法と最近の組み合わせ方法によるものづくりの違いについても説明を行う

到達目標

以下を本講義の到達目標とする。
（1）企業経営に於ける技術開発の基本的な考え方を身につける。
（2）技術開発のポイントを説明できる。

提出課題

講義ビデオの終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。
また、講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。
小テスト及び課題の提示はＲＥＳＰＯＮＥにより行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて講義内で説明を行う。

評価の基準

（1）本講義はオンデマンド形式で行い、講義ビデオの終わりに課題を提示することがある。
（2）評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
（3）　授業参加度５０点、復習テスト又は課題５０点で評価する。
また、課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
（4）授業参加度の確認とコメント及び課題の提示と回収はＲＥＳＰＯＮＥにより行う。
講義形態がオンラインに移行した場合にも講義はオンデマンド形式で行い授業参加確認と課題の提示はＲＥＳＰＯＮＥにより行う。

履修にあたっての注意・助言他

（1）授業の運用方法，評価基準，受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明する。履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
（2）講義中の私語、飲食、カバンや飲食物を机上に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。そしてルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じることもある。
（3）質問を行う等の積極的な参加を期待する。
（4）本講義はオンデマンド形式を原則とする、しかしコロナウイルスの広がり、その他の理由により、ＬＩＶＥ配信となることがある。

教科書

.使用しない。.

プリント資料及び参考文献

必要に応じて、プリント又は教材を配布する。
参考文献は適宜紹介する。

授業計画

第１回　企業経営を取り巻く環境
第２回　工業製品と生産管理
第３回　技術と企業経営
第４回　経営戦略と知的財産管理
第５回　研究開発
第６回　製品開発
第７回　プロジェクト管理
第８回　行程計画
第９回　工程管理とEVM
第１０回　生産方式と生産システム
第１１回　ヒューマンリソース
第１２回　バリューチェーン
第１３回　経営と情報システム
第１４回　品質管理と標準
第１５回　企業経営のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

シラバスに従った予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。当該講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと。また小テストの内容は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、製品戦略と製品開発における技術開発のポイントを解説する

備考

問題意識を持って講義に参加すること。